

株主通信

第52期決算報告

セコム株式会社

6月  
2013年



# ALL SECOMで 超高齢社会の課題を解決していく

これからへの決意、  
超高齢社会への取り組み、  
国内最大規模のデータセンター事業について、  
社長の前田修司から  
ご説明させていただきます。

前田修司

セコム株式会社 代表取締役社長



**ま**ず、「飛躍的成長元年」と位置づけられた  
この1年間についての所感をお聞かせください。

「セコムフェア2012」の開催を通して、「社会システム産業」の将来像をセコムグループ全体で共有できたことで組織が一段と活性化し、飛躍的に成長していくための良いスタートが切れたと感じています。これから、社内外に発信したセコムグループが創る近未来ビジョンの実現に向けて、たゆみなく、新しいサービスを一つずつ積み上げていかなければならないと、決意を新たにしました。

**当**期は売上高・営業利益・当期純利益が  
過去最高となりました。要因は何だとお考えですか。

国内防災業界3位のニッタン(株)と国内最大規模のデータセンター事業会社である(株)アット東京のグループ入りが寄与したこともあります。大事なことはセキュリティ事業が着実に伸びていることです。

その要因の一つとして、セキュリティサービスの質が向上しているとともに、セキュリティシステムが、お客様にとって使い勝手が良くなってきていることが挙げられます。その代表的な例は、家庭向けで言えば「セコム・ホームセキュリティ

G-カスタム」、事業所向けでは「セコムLX」や「セコムFX」です。

「セコムLX」は、24時間オンライン監視と施設内の出入管理を一体化したシステムで、防犯・防災対策だけでなく労務管理や情報漏えいの防止に役立てることもできます。一方「セコムFX」は、24時間オンライン監視と設備制御機能を一体化したシステムで、店舗・施設・オフィスなどの自動運行をサポートし、省エネや省力化、サービスの向上に貢献しています。このように、セキュリティだけでなく、お客様の事業運営に貢献するシステムの拡販にも努めています。

#### 4月1日から提供を開始した高齢者向け救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」とはどのようなサービスですか。

日本が直面している超高齢社会の課題に対して、“ALL SECOM”で何ができるかを考え、具現化したサービスが「セコム・マイドクタープラス」です。

たとえば、急に胸が苦しくなった、めまいに襲われたといった救急時に、携帯型の専用端末を使って、屋内・屋外を問わずどこからでもセコムに救急通報でき、状況に応じて訓練を受けた緊急対応員が駆けつけ、転倒対応などを行います。

また、お客様から要請があれば、別途ご契約いただく介護事業会社の(株)ニチイ学館や(株)ツクイなどに訪問介護の要請を行います。

さらに、あらかじめかかりつけ医や持病などの救急情報をセコムのデータセンターでお預かりし、119番通報の際にセコムから専用端末に送信します。また、救急隊員や医療機関から要請があれば、速やかに救急情報の伝達に努めます。

お客様から「こんなサービスを待っていた」という声もい

ただき、すでに貢献事例も出ています。

なお、「セコム・マイドクタープラス」は、自治体や法人向けには単独のサービスとして、家庭向けには「セコム・ホームセキュリティ」のオプションサービスとして提供していません。

#### そうしたサービスやシステムを支えるインフラがデータセンターですね。

セコムグループが描く近未来の社会は人や企業が情報ネットワークで結ばれた社会です。このネットワークを行き来する膨大な情報を安全かつ効率的に集積し管理するのがデータセンターです。セコムは、データセンターを単なるハード面の役割にとどめず、各種サービスを提供するサービスセンターとしての役割を果たしていくために、独自のデータセンターが必要だと考えてきました。

昨年、(株)アット東京がグループ入りし、セコムグループはすでに総延床面積23万㎡の国内最大規模のデータセンター事業会社になっています。データセンター需要は高まる一方ですので、これからも積極的に新たなデータセンターの開設を進めていきます。

#### 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

株主の皆様へ安定的かつ継続的に利益配分を行うという基本方針のもと、当期の業績が堅調に推移したことにより、1株当たり配当金を前期比15円増配の105円とすることにしました。今後も、株主の皆様のご期待に添えるよう、セコムグループの成長を加速させてまいります。

## 進化する「セコム・ホームセキュリティ」 あらゆる世代に「安全・安心・快適・便利」を

### || 社会の変化を先読みし、お客様の声に応える

1981年、セコムは日本で初めてホームセキュリティシステムの提供を開始しました。ご家庭とセコムをオンラインでつなぎ、24時間365日、防犯・防火・救急を見守り続ける「セコム・ホームセキュリティ」。現在では約89万3000件のご家庭に「安全・安心」を提供しています。

いま、日本は超高齢社会という時代を迎え、核家族化や高齢者の単身世帯の増加など、家族のあり方も変化しています。セコムはこのような変化の中で、従来の防犯・防火・救急だけでなく、より豊かな暮らしのお役に立ちたいと、2011年12月に日本初となる写真や身分証明書などの個人情報や災害時の備えとしてセコムが預かる「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」を販売開始しました。

### || 「安全・安心」だけでなく「快適・便利」も提供

「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」は、セキュリティはもちろん、セコムグループの商品を購入することや、ご家族との情報共有を行うこともできます。

さらに今年4月、セコムが提携した企業から、グルメ・食品、百貨店・スーパー、ファッション・美容、旅行など、暮らしに役立つ情報を提供する「マイページ」機能の提供を開始。ホー



「安全・安心・快適・便利」をお届けする  
「セコム・ホームセキュリティGカスタム」

ムセキュリティのホームコントローラーの画面から商品購入や各種申し込み手続きができる便利な機能として好評をいただいています。

### || ご家族も安心、超高齢社会に必要なサービスを開発

核家族化が進む一方で、高齢の親御さんの安否を心配されるご家族も少なくありません。そこで、セコムは今年4月

にホームセキュリティのオプションサービスとして「お元気コールサービス」と「お元気訪問サービス」の提供を開始しました。

「お元気コールサービス」は、セコム医療システム(株)の担当者がご利用者宅にお電話し、ご利用者の健康状態などをご家族やご指定の報



ホームコントローラーの画面で商品購入も可能に

告先へ電子メールで報告します。

そして、「お元気訪問サービス」は、セコムまたはセコムグループの社員、またはセコムが厳選した提携企業のスタッフが、ご利用者宅を訪問し、健康状態や日常生活の様子を確認し、ご家族などに電子メールで報告します。

セコムは、緊急時や救急時だけでなく、高齢者の暮らしを見守るとともに、離れて暮らすご家族にも安心をお届けします。

### 救急時や介護の心配にも応える「セコム・マイドクタープラス」

超高齢社会の喫緊の課題である救急や介護。今年4月、セコムは介護事業会社大手の(株)ニチイ学館と(株)ツクイと協業し、高齢者向け救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」を販売開始しました。

これは、携帯電話、GPS機能、救急通報機能を備えた専用端末を使うことで、屋内・屋外を問わず、どこからでも救急通報をセコムに送信できる新サービスです。

救急時には、必要に応じてセコムが119番通報します。また、救急情報を専用端末に送信し、救急隊員や医療機関への伝達に努めます。



「セコム・マイドクタープラス」の専用端末



訓練を受けた緊急対応員が転倒対応も行う

### 救急時や健康不安の相談まで、訓練を積んだプロが対応

さらに、足をくじいたり、ベッドから転倒し介助が必要な場合は、転倒対応の訓練を受けたセコムの緊急対応員が駆けつけお客様をサポートします。

そして、お客様から要請があれば、別途契約されているニチイやツクイなどに訪問介護の要請も行います。

また、日常的な健康の不安を24時間いつでもセコムの看護師に電話で相談することもできます。

屋内にいても、屋外にいても訓練を積んだセコムのプロが対応するこのサービスは、お客様により一層の安心を感じていただけるものと確信しています。

セコムはこれからもセコムグループの強みを最大限に活

かし、お客様により大きな「安全・安心・快適・便利」を感じていただけるサービスの提供に努めてまいります。



日常的な健康相談にはセコム・ナースセンターの看護師が対応



## 民間防犯用としては世界初、 自律型の小型飛行監視ロボットを開発

### セコムグループの技術を活用

2012年12月、セコムは民間防犯用としては世界初となる、自律型の小型飛行監視ロボットを開発しました。

近年、監視カメラのニーズが高まっています。今回開発した小型飛行監視ロボットは、監視カメラ機能を備えながら、最新のロボット技術などを搭載した画期的な飛行監視ロボットです。

小型飛行監視ロボットは、屋外侵入監視センサー「レーザーセンサー」とオンライン・セキュリティシステムの組み合わせで、敷地内への侵入者や侵入車両の位置を検知。その位置情報をもとに自律で飛行し対象物まで接近できるため、死角なく不審者や不審車両の画像を撮影し、セコムに送信することができます。

この小型飛行監視ロボットには、セコム独自の画像解析技術、センシング技術、人物追跡技術、ロボット技術などが活用されています。



民間防犯用として世界初の自律型の小型飛行監視ロボット



セコムグループの技術を結集したロボット

### 国内外で実用化への期待が高まる

小型飛行監視ロボットの開発発表後は、国内外から多くのお問い合わせをいただくなど、大きな注目を集めています。セコムのグループ会社である(株)エスワンがある韓国でも、主要なテレビ局でセコムの最先端のロボット技術が紹介されました。

今後は、セコムトラストシステムズ(株)と(株)アット東京のデータセンターと情報セキュリティ技術、そして(株)パスコの空間情報の処理技術など、セコムグループの技術やノウハウも活用し、実用化を目指していきます。

このロボットの実用化によって、より早く異常を検知し、より迅速な対応ができることで、「安全・安心・快適・便利」な社会の実現に貢献してまいります。

## 最先端の設備を持つセコムの生産拠点 セコム工業(株)の新本社工場が竣工

昨年11月、宮城県白石市にあるセコム工業(株)の新本社工場が竣工しました。

セコム工業は、1977年にセキュリティ機器の設計・製造を行う会社として設立。以来、独自の生産方式により多品種生産に対応してきました。

このたびの新本社工場は、工場の業務拡大と東日本大震災により工場が被害を受けたことにより、新設しました。

新本社工場は、“自然と調和した最先端工場”をコンセプトに、安全・環境を考慮し、設計された最新鋭の工場です。

そして、機器の信頼性を検査する試験エリアや生産エリアをこれまで以上に拡充。高品質・高性能な機器の検査に不可欠である電波暗室や低温恒温恒湿室シールドルームという最新の実験室なども備えています。

最先端の設備を持つセコム工業の新本社工場。今後は生産拠点の中核として、ますます高度化するセコムグループのサービスを支えるために必要な機器を生産する拠点としてその役割を果たしていきます。



高品質・高性能な機器を製造する  
セコム工業(株)の新本社工場

## 東京と大阪に新「セキュアデータセンター」 今秋オープン、データセンター事業を拡大

セコムの情報系事業を担うセコムトラストシステムズ(株)は、今秋10月に大阪に、そして11月に東京に新しいデータセンターを開設します。

セコムグループは2000年12月からIT社会の「安全・安心」を支えるために、物理的なセキュリティと情報セキュリティの両面で国内最高クラスのセキュリティを誇る「セキュアデータセンター」サービスを提供。

昨年10月には(株)アット東京がグループ入りしたことにより、総延床面積23万㎡を超える国内最大規模のデータセンター事業会社として質の高いサービスを提供しています。

東日本大震災後の事業継続計画(BCP)や今後発生が予測される南海トラフ地震の懸念を背景にデータセンターサービスの需要はますます高まりを見せています。そうしたニーズに応えるべく新たな施設を加える「セキュアデータセンター」は、セコムグループが独自に提供する「情報セキュリティサービス」や「BCP・災害対策サービス」をはじめとする、各種サービスの中核機能の“サービスセンター”として、

より一層の業容拡大と価値向上を図っていきます。



セコムの各種サービス機能の  
中核と位置づけられる  
「セキュアデータセンター」

## 緊急事態発生時に最適な社員配置を実現 「セコム非常呼集サービス」の販売を開始

今年2月、セコムトラストシステムズ(株)は、緊急事態発生時に、最適な人員配置による初動対応をトータルに支援する「セコム非常呼集サービス」を販売開始しました。

昨今、発生が懸念されている首都直下型地震や南海トラフ地震などの大規模な自然災害に加え、サプライチェーンのグローバル化、機密情報を狙うサイバー攻撃など、事業停止のリスクは多様化、複雑化しています。

セコムは2004年10月から、大規模災害発生時に社員・家族の安否状況を把握できる「セコム安否確認サービス」を提供しています。以来、お客様の声を反映させて、機能を拡充し、現在では国内最大規模の危機管理サービスとなっています。

「セコム非常呼集サービス」は、社員の安否が確認できたあとの初動対応に必要な、緊急事態の内容に応じた最適社員の選別および対応指示、さらに現地状況のリアルタイムな把握と情報の共有ができるものです。

セコムグループは、企業の重要課題である緊急事態発生時における安否確認や早期復旧に貢献してまいります。

企業の緊急事態に備える「セコム非常呼集サービス」



## 帰宅困難者をサポートする防災備蓄品セット 「あったか非常時安眠セット」を発売

今年4月、セコムが厳選した防犯・防災グッズ「セコムセレクション」のオリジナル企画「あったか非常時安眠セット」を発売しました。

東日本大震災の発生後、大規模災害への備えに対する重要性が各方面で見直されています。東京都では4月1日から都民は大規模災害発生時にむやみに移動しないこと、そして事業者は従業員向けの水、食料、毛布などの備蓄品を3日分備えることを条例として制定しました。



帰宅困難者をサポートする「あったか非常時安眠セット」

この「あったか非常時安眠セット」は、セコム独自の基準にもとづき、各アイテムの有用性を確認し、いざというときに役立つアイテムを厳選した防災備蓄品のセットです。このセットは、災害時用の毛布、簡易エアマット、そして約10食分の非常食などがコンパクトにまとめられています。

法人の従業員や駅・公共施設の利用者、学校などの教員・生徒などへの災害時の備えとして、1人ワンセットで必要最低限の備蓄品としての役割が果たせる「あったか非常時安眠セット」はお客様から大いに期待されています。

セコムグループはこれからも災害対策を積極的に提案してまいります。



## “ALL SECOM”の総合力を紹介 最先端の映像技術を駆使したショールームを開設

セコムは、セキュリティ、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報系、不動産といったセコムグループの事業を複合的に組み合わせることで、革新的なサービス・システムの創出、そして社会への「安全・安心」の提供に努めています。



Zone1の未来の会議室

このたび、セコムは“ALL SECOM”の取り組みをより一層お客様にご理解いただけるように、最先端の映像技術を使った革新的なショールームを今年7月、東京・原宿にあるセコム本社1階にオープンします。

新しいショールームでは、システムの機器展示がなく、映像のみで“ALL SECOM”の取り組みを紹介します。

ショールームは3つのゾーンに分かれていますが、Zone1は未来の会議室でセコムグループをご紹介、Zone2は3面200インチのスクリーンで家庭・法人向けサービスを体感プレゼンテーション、Zone3ではセコムを支えるバックボーンのパズルプレゼンテーションを行います。

このショールームをご覧いただくことで、社会の「安全・安心」を牽引するのはセコムグループであることを感じていただける施設を目指していきます。

## 「セキュリティショー 2013」にセコムが出展 斬新なプレゼンテーションで注目集める

今年3月、セコムは東京・有明の東京ビッグサイトで開催された国内最大級のセキュリティの展示会「セキュリティショー 2013」に出展しました。

毎年出展するセコムのブースは、セキュリティの導入をご検討中の企業や公共機関、個人の方まで、多くの方にお越しいただいています。

今年のセコムブースの大きな特長は、ブース内にあえて機器を展示せず、プレゼンテーションのほぼすべてを映像で行ったという点です。

注目を集めたのは200インチの大型スクリーンを正面、左右の3面に設置した、「セコムシミュレーター」でした。ここではセコムのサービスやシステムが暮らしのなかでどのように役立っているかをCGを駆使した映像技術とナレーターとの掛け合いで紹介しました。

オフィスでも家庭でも、あらゆる場面で「安全・安心」を提供するセコムグループの多彩なサービスをご来場者に紹介することができました。

セコムグループはこれからも“ALL SECOM”で革新的なシステムやサービスの創出を目指していきます。



斬新な展示手法で  
“ALL SECOM”を紹介した  
「セコムシミュレーター」

## セコムの「安全・安心」を支える機器を製造 独自の設計・製造基準で高品質なシステムを創る

### ■ セコム工業の使命をお教えてください。

セコム工業は1977年に、セコムグループの製造部門の中核工場として設立しました。セコムIS研究所や開発センターで研究開発された最先端技術を駆使したセキュリティ機器を、高品質かつスピーディーに製造し、お客様にお届けすることが我々の使命です。

そのために、品質・コスト・環境を徹底的に追求しています。信頼性の高い、適正な価格の機器、迅速な納品、環境への配慮がお客様の満足度につながりますので、常にお客様の視点で考えることを心がけています。

### ■ 高効率・高品質な製造を目指した取り組みをご紹介します。

セコムグループでは「社会システム産業」の構築を目指し、革新的で多種多様なシステムを次々と創出しています。セコム工業では、多品種生産に対応するために、「セル生産方式」といって、機器の最終組み立てから検査、梱包までを少人数、一つのラインで製造する生産ラインを独自に構築しています。

また、セコム工業にも技術者が在籍しています。セコムIS研究所や開発センター、海外のグループ会社である上海能美西科姆消防設備有限公司と連携し、より高品質なシステムの設計・製造にも努めています。

セコムの研究開発

R&D

セコム工業(株)



セコムが常にセキュリティ業界をリードし続けてきた理由は、独自の研究開発体制で、新しいシステムを世の中に送り出してきたことにあります。今回は、セコムグループの機器の設計・製造を担うセコム工業(株)をご紹介します。

セコム工業(株)  
代表取締役社長 新開 至

*Itaru Shinkai*

### ■ 環境に配慮した取り組みについて お聞かせください。

環境への配慮は、経営の最重点課題の一つとして、取り組んでいます。

その一例としてセコムは創業当初から、セキュリティシステムをレンタルし「安全・安心」を提供していることが挙げられます。回収された機器はセコム工業に返却され、それらを再生できるもの、できないものに仕分け、使えるものはすべて再利用するよう努めています。

### ■ セコムグループの製造工場として ますます期待が高まります。

「最高品質の機器を提供すること」それは、最高品質のサービスを提供することにつながります。セコム工業は、グループ会社との連携を深めながら、セコムグループの一員としてより良いシステムや商品をお客様に提供し続けていきます。

## すべてはおお客様の「安全・安心」のために 誇りと信念を持って業務に取り組む

### ■ 大震災から2年。現在の取り組みを教えてください。

現在、東北地方では一日も早い復興に向けてさまざまな取り組みが行われています。そして、セキュリティを再導入される企業やご家庭も増えてきました。セコムは、今まで以上に本格的な復興活動を行うべく、昨年11月に復興開発部を設置しました。復興開発部は、東北エリアで求められているセキュリティだけでなく、防災や情報セキュリティといった、トータルな「安全・安心」をセコムグループ一丸となり、提案することを目指して取り組んでいます。

### ■ セキュリティスタッフの教育も重要ですね。

緊急対応、常駐警備、現金護送といったセコムの業務部門では常に基本に忠実であることが重要です。そのため東北エリアに限らず、さまざまな研修が行われていますが、東北本部では、全国のセキュリティスタッフに対して行われる研修だけでなく、独自の研修も実施しています。セキュリティシステムに関する技術的な知識はもちろんですが、いつでもお客様からのご相談にお応えできるよう、セコムグループのサービス・システムの知識を高め、より優れた提案力を身につけることを目指しています。

### ■ 具体的にどのような研修を行っているのでしょうか。

我々セキュリティスタッフは常に制服を着て業務を遂行します。私たちの行動が「セコムブランド」を大きく左右すると言っても過言ではありません。東北本部

セコムのフィールド  
*Field*

セコム(株)  
東北本部



セコムのセキュリティシステムは、安全のプロによるサービスがその質を決めます。今回は、東北エリアに「安全・安心」を提供するセコム(株)東北本部の取り組みをご紹介します。

セコム(株) 東北本部  
業務部長 竹居 寛

*Hiroshi Takei*

においては、管轄する約60の事業所のキーパーソンを集め、彼らを核にセキュリティのプロとして我々は何をすべきか、そして何のために行うのかという意識をしっかりと根付かせるようにしています。これらを正しく認識、理解することで、自分の仕事に誇りを持ち、結果としてお客様に最高のサービスが提供できるのだと考えています。

### ■ 求められるサービスの質は常に変化しています。

セコムの果たすべき使命もより大きくなっていきますね。

セコムが果たすべき使命はお客様に「安全・安心」を提供することです。我々一人ひとりが真の「安全・安心」とは何かを考え、行動することで、サービスの質の向上を図り、さらなるお客様の満足につなげ、結果としてセコムに対する信頼をいただく。やるべきことをやらずにお客様に満足や感動を感じてもらうことはできません。“心と技術”、これを根底におき、「お客様を守り抜く」という信念を持って業務に邁進していきます。

## セコムが海外に事業を展開し35年 日本で培ったノウハウを世界の「安全・安心」に



1978年、セコムは台湾にある国産実業グループと業務提携し、両社の合併で台湾初のオンライン・セキュリティシステムを提供する、中興保全股份有限公司を設立しました。セコムにとって、初めての海外事業展開が台湾でしたので、今年ではセコムにとっても、海外事業開始35年となります。

現在、中興保全股份有限公司は台湾におけるセキュリティ業界のトップ企業であり、日本のセコム同様に、家庭・企業から大型施設の安全管理システム、常駐警備、現金護送まで、幅広いセキュリティサービスを提供しています。

台湾を皮切りにセコムの国際事



業展開が始まり、現在は台

湾、韓国、中国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナム、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドと、11の国と地域にセキュリティサービスを提供。そして防災や地理情報

サービス事業なども含めると、19の国と地域で「安全・安心」を提供しています。

現在、セコムグループは約66万7000件の海外のお客様に「安全・安心」を提供しています。セコム独自のセキュリティに対する考えが現地に根付き、



中興保全股份有限公司の緊急対応車

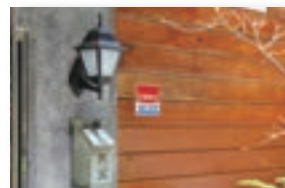
機器の開発、設置から監視、緊急対応

までを一貫体制で行うことで高い評価をいただいています。

セコムグループはこれからも日本と変わらない高品質なサービスの提供で、海外でも高品質なサービスを実現していきます。



中興保全股份有限公司のホームセキュリティ



台湾の街でも目にするSECOMステッカー

## 『セコム その経営の真髓』が発刊 経営学の視点でセコムを分析

昨年7月、ダイヤモンド社から単行本『セコム その経営の真髓』が発刊されました。

本書では、日本初の警備保障会社として設立した創業の経緯や創業者である飯田亮の理念や、セキュリティ、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報系、不動産といったセコムグループが一丸となって取り組む“ALL SECOM”戦略が紹介されています。

また、犯罪動向を先読みし、お客様の声に耳を傾けることで革新的なシステムやサービスを生み出すセコムの研究・開発部門の取り組みも紹介されています。

経営学者、そしてジャーナリストの肩書きを持つ著者により、経営学という視点から、多岐にわたるビジネス展開を行うセコムグループのビジネスデザイン、セコムグループの強みが新たな視点で分析された一冊となっています。



- 書籍名: 『セコム その経営の真髓』
- 出版社: ダイヤモンド社
- 発行日: 2012年7月12日
- 著者: 経営学者、ジャーナリスト  
長田貴仁氏

## 『ALL SECOM 創造する経営』が発刊 セコムグループのビジョンを分析・解説

今年2月、日刊工業新聞社から単行本『ALL SECOM 創造する経営』が発刊されました。

本書は、日本で初めてセキュリティ事業をおこし、独自の経営思想をもとに「安全・安心」を提供するセコムのビジネスデザインと「社会システム産業」の構築を目指す“ALL SECOM”の現在の取り組みについて分析された一冊です。

第1部では「事業戦略の真髓を探る」と題し、セコムの経営哲学、ビジネスデザインなど、革新的で社会にとって必要なサービスを創造する取り組み姿勢が紹介されています。

そして第2部では「社会システム産業の構築に向けた展開」として、セコムグループの“いま”が“ALL SECOM”の視点で紹介されています。

セコムは“ALL SECOM”の取り組みをより一層加速し、社会に「安全・安心」を提供していきます。

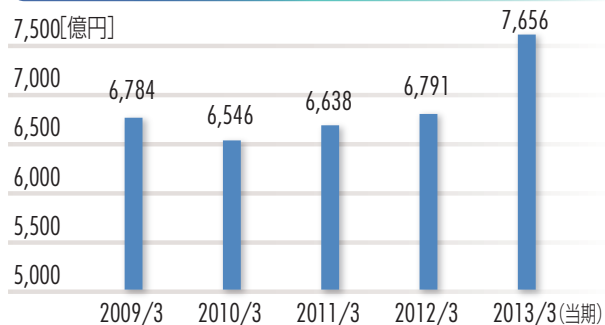


- 書籍名: 『ALL SECOM 創造する経営』
- 出版社: 日刊工業新聞社
- 発行日: 2013年2月27日
- 著者: 関西大学名誉教授(商学博士)、  
公認会計士、税理士 大倉雄次郎氏

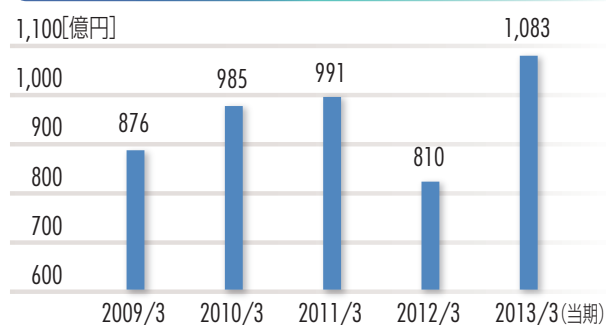


## 連結決算 業績ハイライト

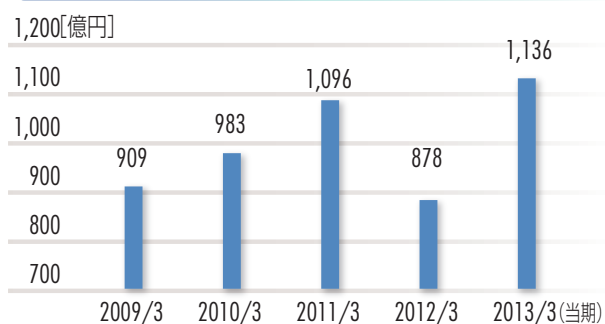
### 売上高



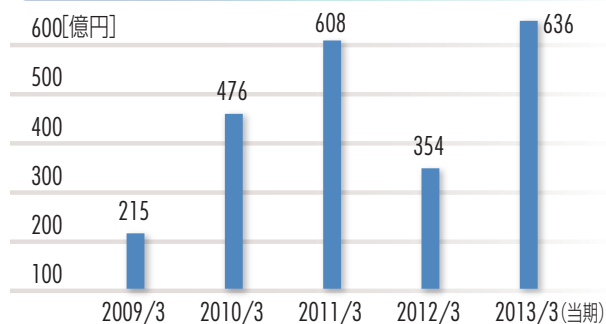
### 営業利益



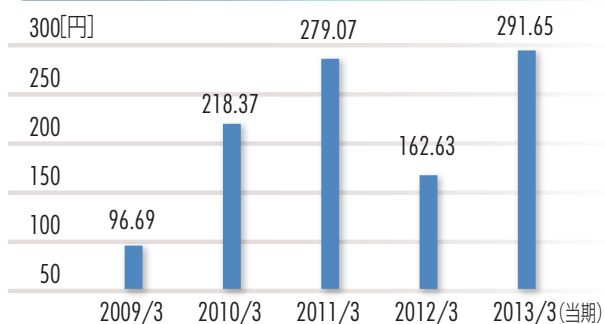
### 経常利益



### 当期純利益



### 1株当たり当期純利益



### 事業別売上高内訳 2013/3(当期)

● セキュリティサービス事業	4,411 [億円]	57.6%
● 防災事業	1,141	14.9%
● メディカルサービス事業	480	6.3%
● 保険事業	351	4.6%
● 地理情報サービス事業	511	6.7%
● 不動産開発・販売事業	271	3.5%
● 情報通信・その他の事業	487	6.4%



# 連結貸借対照表(要旨)

2013年3月31日現在

<単位: 億円> \*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

## 資産の部

<b>流動資産</b>	<b>5,428</b>
現金及び預金	1,754
現金護送業務用現金及び預金	560
受取手形及び売掛金	1,066
未収契約料	240
有価証券	147
リース債権及びリース投資資産	275
たな卸資産	308
販売用不動産	262
繰延税金資産	143
短期貸付金	41
その他	626
<b>固定資産</b>	<b>7,062</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,615</b>
建物及び構築物	1,558
警報機器及び設備	672
土地	1,156
その他	228
<b>無形固定資産</b>	<b>550</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,896</b>
投資有価証券	1,890
長期貸付金	423
前払年金費用	195
繰延税金資産	117
その他	269
<b>繰延資産</b>	<b>0</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,491</b>

## 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>2,478</b>
支払手形及び買掛金	436
短期借入金	423
一年以内償還予定社債	44
未払金	314
未払法人税等	292
前受契約料	308
その他	657
<b>固定負債</b>	<b>2,370</b>
社債	88
長期借入金	198
預り保証金	361
退職給付引当金	171
保険契約準備金	1,336
その他	215
<b>負債合計</b>	<b>4,849</b>

## 純資産の部

<b>株主資本</b>	<b>6,850</b>
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	6,092
自己株式	△736
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△160</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>951</b>
<b>純資産合計</b>	<b>7,641</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>12,491</b>

## 連結損益計算書(要旨)

<単位：億円> \*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期 (2012年4月1日から 2013年3月31日まで)	前期 (2011年4月1日から 2012年3月31日まで)	増減率
売上高	7,656	6,791	12.7%
売上原価	5,040	4,584	
<b>売上総利益</b>	<b>2,616</b>	<b>2,207</b>	18.5%
販売費及び一般管理費	1,532	1,396	
<b>営業利益</b>	<b>1,083</b>	<b>810</b>	33.7%
営業外収益	111	129	
営業外費用	59	62	
<b>経常利益</b>	<b>1,136</b>	<b>878</b>	29.3%
特別利益	9	2	
特別損失	26	115	
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,119</b>	<b>765</b>	46.2%
法人税、住民税及び事業税	432	320	
法人税等調整額	△ 2	46	
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	<b>690</b>	<b>399</b>	72.8%
少数株主利益	53	44	
<b>当期純利益</b>	<b>636</b>	<b>354</b>	79.4%

## 営業の概況(連結)

当連結会計年度における日本経済は、円高や長引くデフレの影響などにより回復に足踏みが見られましたが、昨年末以降、円高修正や景気回復期待からの株式市場の上昇や個人消費の底堅さ等に見られるとおり、持ち直しの動きが見られています。

このような状況の中で、「安全・安心」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しており、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築を目指し、セキュリティサービス事業をはじめ、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業、地理情報サービス事業、不動産開発・販売事業および情報通信・その他の事業で、お客様のニーズに合致した、質の高いサービス・商品を提供することに努めました。

この結果、当連結会計年度における売上高は7,656億円(前期比12.7%増)となりました。営業利益は前期の売上原価に販売用不動産評価損207億円を計上したことなどにより前期比33.7%増加の1,083億円となり、経常利益は1,136億円(前期比29.3%増)、当期純利益は636億円(前期比79.4%増)となりました。なお、売上高、営業利益および当期純利益は過去最高を達成することができました。

<参考> ●連結子会社数 171社  
●持分法適用関連会社数 26社  
●1株当たり当期純利益 291円65銭

## 連結株主資本等変動計算書(要旨)

2012年4月1日から2013年3月31日まで

<単位：億円> \*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					その他の包括利益 累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当連結会計年度期首残高	663	830	5,652	△736	6,410	△330	635	6,715
剰余金の配当			△196		△196			△196
当期純利益			636		636			636
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
自己株式処分差損の振替			0	△ 0	-			-
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						170	316	486
連結会計年度中の変動額合計	-	-	440	△ 0	440	170	316	926
当連結会計年度末残高	663	830	6,092	△736	6,850	△160	951	7,641

## 貸借対照表(単体・要旨)

2013年3月31日現在

<単位：億円>

\*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

### 資産の部

<b>流動資産</b>	<b>1,745</b>
現金及び預金	541
現金護送業務用現金及び預金	535
未収契約料	148
売掛金	96
たな卸資産	65
短期貸付金	192
その他	164
<b>固定資産</b>	<b>5,747</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,179</b>
建物	170
警報機器及び設備	653
土地	298
その他	57
<b>無形固定資産</b>	<b>93</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,475</b>
投資有価証券	215
関係会社株式・出資金	2,381
長期貸付金	1,558
長期前払費用	215
前払年金費用	162
その他	△ 58
<b>資産合計</b>	<b>7,493</b>

### 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>1,241</b>
買掛金	30
短期借入金	265
未払金	193
未払法人税等	195
預り金	241
前受契約料	216
その他	98
<b>固定負債</b>	<b>260</b>
預り保証金	178
退職給付引当金	40
役員退職慰労引当金	8
その他	32
<b>負債合計</b>	<b>1,502</b>
<b>株主資本</b>	<b>5,962</b>
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	5,204
自己株式	△ 736
<b>評価・換算差額等</b>	<b>29</b>
その他有価証券評価差額金	29
<b>純資産合計</b>	<b>5,991</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>7,493</b>

### 純資産の部

## 損益計算書(単体・要旨)

2012年4月1日から2013年3月31日まで

<単位：億円>

\*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	3,553
売上原価	2,107
<b>売上総利益</b>	<b>1,446</b>
販売費及び一般管理費	746
<b>営業利益</b>	<b>699</b>
営業外収益	101
営業外費用	37
<b>経常利益</b>	<b>763</b>
特別利益	12
特別損失	10
<b>税引前当期純利益</b>	<b>765</b>
法人税、住民税及び事業税	284
法人税等調整額	△ 11
<b>当期純利益</b>	<b>491</b>

<参考> ●1株当たり当期純利益 225円08銭

## 会社概要

### セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 51,133名(2013年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システムの提供、各種安全商品などの販売を通じて、社会に「安全・安心」を提供しています。

セコムグループは、社会にとって「安全・安心」で、快適で便利なサービスやシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指しています。

### 取締役(2013年6月25日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三
取締役	布施達朗
取締役	古川顕一
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	澤田貴司*

### 監査役(2013年6月25日現在)

監査役(常勤)	坂本正治
監査役(常勤)	桑原勝久
監査役(社外)	常松 健*
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	関家憲一*

\*証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

### 執行役員(2013年6月25日現在)

代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
常務執行役員	小河原俊二
常務執行役員	中村直英
常務執行役員	向井俊之
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	吉村輝壽
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三
取締役	布施達朗
取締役	古川顕一
執行役員	伊東孝之
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
執行役員	小松良平
執行役員	新井啓太郎
執行役員	園田博道
執行役員	石川 博
執行役員	杉本陽一
執行役員	泉田達也

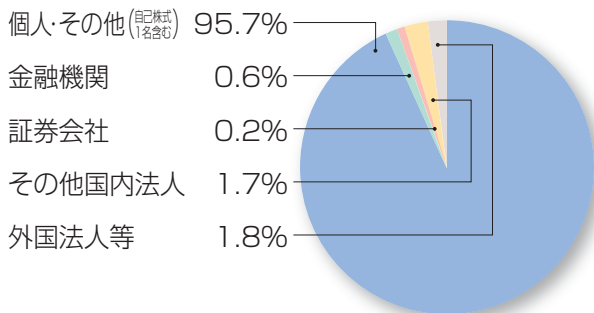


# Information

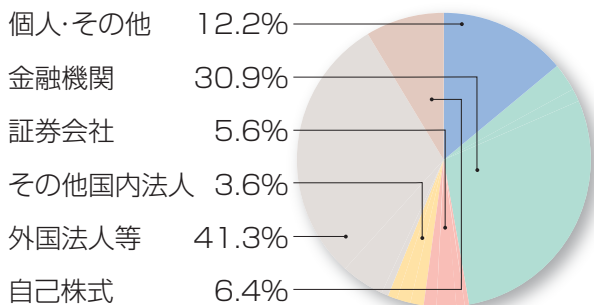
## 株式の状況(2013年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 単元株式数 100株
4. 株主数 27,628名
5. 所有者別状況

### ●株主数比率



### ●株式数比率



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 上場証券取引所 東京、大阪
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告  
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

## 株式に関する各種お手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… ▶ 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… ▶ 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… ▶ 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081  
東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎0120-232-711 [平日 9:00~17:00]

手続用紙のご請求

☎0120-244-479 (音声自動応答)

☎0120-232-711 [平日 9:00~17:00] <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ニチイとツクイとの協業により生まれたシニアの方のための新サービス  
セコムと、ナースと、介護スタッフが、あなたの救急時に対応します。

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**

急に具合が悪くなったとき  
セコムとナースが屋外でも対応します

セコムの緊急対応員

あなたの持病などを記載した  
「救急情報」をお預かりします

セコムナースセンターの看護師

専門的な介護が必要な場合は  
介護スタッフにも連絡します

介護事業会社の介護スタッフ



セコムが駆けつける。  
介護スタッフが対応する。**セコム・マイドクタープラス**

※セコム・マイドクタープラスは、「セコム・ホームセキュリティ」のお客様のためのサービスです。※ニチイ、ツクイのサービスは、一部地域限定で提供し、順次拡大していきます。

セコム

検索



**0120-025756** (24時間・年中無休) **セコム株式会社**

表紙写真のご説明

セコム工業(株)  
新本社工場  
(宮城県)

セコム工業(株)は1977年10月に宮城県白石市に設立。2012年11月竣工の新本社工場は最新の実験・生産設備が整った施設で、セコムのセキュリティ機器の設計・製造を行う。多品種生産で、独自の品質基準のもと、高品質な機器を生産している。品質/環境マネジメントシステム ISO9001/14001を取得。



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。

セコム コーポレート広報部 756-13-06-302